

◆特集 第16回日赤図書館協議会◆

インターネットを使った情報検索方法
～Google Scholarほか～

大野 充章

抄録：図書業務に有用なサイトは数多く存在している。今回はGoogle Scholarを中心とした無償で利用できるサイトを紹介します。検索だけではなく、日々の業務の手助けとなるようなお助けサイトも紹介している。無償サイトはテーマ探しに活用し、詳細な情報は有償データベースや電子ジャーナルを当たるとよい。またSFxなどのリンクリゾルバーを利用し、適切な情報源へとナビゲートすることにより、入手できる文献は大きく増えるので、合わせて活用できる。その他RSSといった便利機能や最新の出版業界動向を確認できる情報元を紹介する。

Key words : Google Scholar、リンクリゾルバー、リポジトリ、RSS

I. はじめに

インターネットが普及し、情報の氾濫が騒がれる一方、やはり知らなければ探せない情報も多くある。今回は無償で利用できるサイトの基本情報を紹介する。検索サイトのみならず、有用な情報を得られるサイトも案内していくので、日常業務の参考となれば幸いである。

II. 医学情報サイト

1. MEDPEDIA <http://www.medpedia.com/>
2009年2月にベータ版が公開された医療・医学分野のオンライン百科事典である。ハーバード大学やスタンフォード大学、カリフォルニア大学などの多くの機関が協力しているプロジェクトで、現在は英語での提供だが、

今後は日本語を含む多言語にも対応予定である。特筆すべきは編集権限が限定されている点だ。MEDPEDIAでは「医師、もしくは生物医学分野の博士号をもつ利用者のみ」と書き込みが制限されることによって内容の正確性が保障されているのである。

2. Minds <http://minds.jcqh.or.jp/>

財団法人日本医療機能評価機構により公開されているサイト。各種医療情報の提供を通じて、国民全員が質の高い医療を享受できる環境を実現することを目的としている。国内の学会が作成したガイドラインの参照ができ、現在は臨床向けに57疾患、一般向けに13疾患が公開されている。他にもMindsアブストラクトという構造化された抄録集が閲覧できる。

3. UMIN <http://www.umin.ac.jp/>

大学病院医療情報ネットワーク (University Hospital Medical Information Network) は

ONO Mitsuaki
ユサコ株式会社
tokyo-sales@usaco.co.jp

医学関連分野における公的な研究教育用情報ネットワークである。利用には登録を必要とするものが多いが、病院図書室勤務者にはその資格が与えられている。代表的なサービスとして、ELBIS (医療・生物学系電子図書館) やINDICE (インターネット医学研究データセンター) がある。

4. LITERIS <http://literis.umin.jp>

医学医療系を中心とする図書館員によって2001年に開設されたサイトで、2007年にリニューアルされている。図書室担当者が作成しているため、実践的に役立つ情報が多く掲載されている。医学系レファレンス事例集でコメントを入力するなど、参加することができるのも特徴である。

Ⅲ. リポジトリ、オープンアクセス等

1. JAIRO <http://jairo.nii.ac.jp/>

日本の学術機関リポジトリに蓄積された学術情報を横断的に検索ができるサービスである。2009年8月現在、125機関、710,885件が利用可能である。JAIROとはJapanese Institutional Repositories Onlineの略称で、国立情報学研究所 (NII) が各機関のリポジトリ運営責任者からの申込に基づき、学術機関リポジトリのメタデータを収集している。

2. PORTA <http://porta.ndl.go.jp/>

国立国会図書館が運営している、デジタルアーカイブポータルサイトである。デジタルコンテンツは所在を知らなければ容易に見つけることができない可能性が高い。PORTAは国内の45アーカイブを対象に一元的な検索を行うことが可能なので、今まで埋もれていた資料にもたどり着くことができる。前述のJAIROもPORTAの検索対象になっている。また、現在では試験的に携帯端末から

の利用も可能になっている。

3. DOAJ <http://www.doaj.org/>

スウェーデンのルンド大学図書館が提供しているサイト。DOAJはDirectory of Open Access Journalsの略。無料で全文公開されている学術雑誌を対象とし、2009年8月現在4,302誌が掲載されている。収録は人文・社会・自然科学全分野に渡る。また非西欧地域のものも多く含まれているのも特徴である。検索の基本は雑誌レベルだが、1,000誌程を対象に論文レベルでの検索も可能となっている。

4. Free Medical Journals

<http://www.freemedicaljournals.com/>

各種の医学情報サービスを手掛けるBernd Sebastian Kamps氏によるサイト。英文誌を中心に約1,200タイトルを収録している。対象は無料公開されている医学生物学系学術雑誌である。DOAJと違い、こちらのサイトでは論文レベルでの検索は一切できないので注意が必要である。

Ⅳ. 検索エンジン

1. リサーチ・ナビ

<http://rnavi.ndl.go.jp/rnavi/>

国立国会図書館が運営する調べ方のヒントを提供するサイトで、2009年5月から公開されている。調べ物をする際に参考になる資料やサイト、データベースを紹介している。使い方は、大まかな分野からスタートして、階層を下りていくと細かなテーマにたどり着く。例えば「文献ツール紹介サイト」から「病気 (疾病) 別医療情報ガイド」を選択すると、各疾病についての基本的な説明から、参考書籍や医中誌Webなどのデータベースを教えてください。

2. J-GLOBAL <http://jglobal.jst.go.jp/>

独立行政法人科学技術振興機構 (JST) が提供する、業種を超えた情報収集や新たな発想を支援する、科学技術総合リンクセンターである。試行版が2009年3月に公開された。目指すテーマは「つながる、ひろがる、ひらめく」の3点である¹⁾。関連情報を芋づる式に入手ができ(つながる)、JDreamやCrossRefなどの他サイトと連携して(ひろがる)、分析・可視化機能により新たな発見を支援(ひらめく)しており、漠然としたキーワードからテーマを探る際に有効なサイトであると言える。Googleのクローラーに基本情報を開放することによって、Googleの検索結果上部にJ-GLOBALの検索結果が表示されるようになっているので、すでに目にしたことがある方も多いのではないだろうか。

3. Wolfram Alfa

<http://www.wolframalpha.com/>

2009年5月に公開され、Googleキラーと称されたサイトである。一般的な検索サイトでは検索ボックスに入力したワードが含まれているページを表示させるが、このサイトでは回答を計算して表示させることを特徴としている。具体例で示すと、Wolfram Alfaで「Breast Cancer」と入力すると、乳癌の患者数や死亡確率などの統計データを表示する。非常にユニークなサイトである。

4. Google Scholar

<http://scholar.google.co.jp/>

全世界で幅広く利用されているGoogleの学術情報に特化した検索エンジンである。学術論文を探すだけでなく、引用情報 (Impact Factor) を確認することも可能である。ただしThomson社のWeb of Scienceと異なり、対象誌が公にされていないので、数値の信頼

度に疑問は残る。検索対象として全文を対象としていることも特徴の一つである (PubMedは抄録を対象としている)²⁾。問題点は、Google側が設定したリンク先に限定されている点である。オンラインジャーナルの閲覧サイトが複数あった場合には、自機関で契約しているサイトでしか閲覧ができないが、リンク先のサイトが必ずしも契約サイトではないことがある。

最近では機関リポジトリが整備されており、無料で論文を閲覧ができる可能性も高くなっている。ところがGoogle Scholarではリポジトリをリンク先として表示してくれない。そこでリンクリゾルバーが活躍する。例えばユサコで取り扱っているSFXやOCLCのWorld Cat Link Managerなどを導入すると、Google Scholarではたどり着けなかった前述のJAIROへとリンクナビゲーションをしてくれるので、結果として全文を無料で閲覧ができるようになるのだ。

V. 便利機能、ニュース

1. RSS

更新情報を自動的に収集して、新着情報を通知してくれるシステムである。最近ではブログでもおなじみの機能となっているので、利用されている方も多いただろう。RSSリーダーが必要となるが、設定は難しいものではない。身近なところではPubMedもRSSに対応している。また出版社によっては雑誌の目次を通知してくれるeTOCサービスも提供している。

2. Current Awareness

<http://current.ndl.go.jp/>

国会図書館が提供しているサイトで図書館界、図書館情報学に関する最新の情報が入手できる。日本国内だけでなく、海外の最新情

報を確認することができるので、大変重宝するであろう。前述のRSSを使って定期的にチェックすると、最新情報を漏れなく確認することができる。

3. 学術出版業界ニュース

ユサコのUSACO News (<http://www.usaco.co.jp/>) や丸善の丸善ライブラリーニュース (<http://www.maruzen.co.jp>) 等、学術出版業界における各業者のメールマガジンの定期配信や最新トピックスがホームページ上に掲載されている。USACO News (創刊200号を節目にして名称をUSACO New Media Newsより変更) では、毎年夏に雑誌の値上がり動向なども掲載があり、図書館業務において有用な情報が得られる。

Ⅵ. おわりに

図書業務において参考になるサイトは多く存在しているが、その存在を知らなければ見逃してしまうことは多くある。この記事を書

っかけに情報検索の幅が広がれば幸いである。無料のサイトは大変重宝するが、それですべての情報を集められるわけではない。これらのサイトはテーマ探しに活用し、詳細な情報や最新の論文は有料のデータベースや電子ジャーナルを活用されるのが望ましい。リンクリゾルバーを活用し、適切な情報源へとたどり着くことによって、入手できる文献は大きく増えるので、こちらも有効活用したい。

最後に、限られた紙面で数多くのサイトを紹介した結果、各サイトの説明が短くなってしまったことをご容赦いただきたい。

参考文献

- 1) 松邑勝治、黒沢努、関根基樹他: 「J-GLOBAL」 試行版(β版)の構築と今後の展望. 情報管理 2009 ; 52(3) : 150-157.
- 2) 門川俊明: 医家向け電腦道具箱 Google Scholarを使い倒す. 医学のあゆみ 2007 ; 220(3) : 249-251.